

南伊豆手石港出船 フルレンタルで 手ぶら釣行もOK 南伊豆のキンメ快調!

撮影・訓覇啓雄



●キンメは大きな反応が出る事が多い早朝の1投目が一番のチャンスだが、日が高くなってから多点掛けて食うこともあるので気が抜けない



▲アベレージは600~800グラム級

▶慣れた人は回収した仕掛けのエサを外し、次の仕掛けに付けて再利用する



●愛丸は右舷に並び片舷流して狙う

●ズラズラ連なって上がってくるキンメ。とにかく足元にたぐり込んでしまおう



●取り込みは隣人がキンメの下方にタモを添えてアシストする



●クロムツも交じった

▶夏場は魚の鮮度が落ちやすい。釣れたキンメは氷を効かせた大きめのクーラーでしっかりと冷やして持ち帰ろう

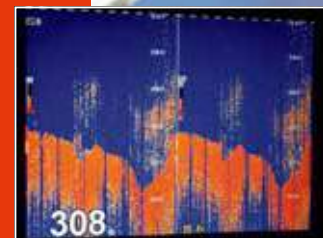


▲通常エサは持参になるが、フルレンタル利用者にはカツオの腹身が支給される

▲愛丸のフルレンタルは深場竿と大型電動の貸し道具、仕掛け、鉄筋オモリ、エサ、氷付き



▲探しあてた反応に仕掛けが入るように潮具合を見て合図を出す。投入回数は8回まで



▲早朝は底から20メートル上までキンメの反応がビッシリ

●キンメ釣りはもっぱらフルレンタルで楽しんでいるという常連さんが1投目で上げた当日最高の14点掛け

●仕掛けの投入は、船長の合図でミヨシ側から順番に行う

●キンメダイと聞くと冬をイメージするかもしれないが、南伊豆のキンメは四季を通して出船している。そればかりか、海が穏やかな日が増える夏場は出船率が高いうえ、キンメは夏に脂の乗りが一層高まるとされており食味の点でも楽しみが大きい。

●主な釣り場は新島沖や石廊崎沖などで、手石港の愛丸を取材した7月13日は石廊崎沖の水深310~350メートル前後を狙い、600~800グラム級主体に1キロオーバーを交えて一人20~35枚という好模様。

●本格的な深海釣りというイメージが腰が引けてしまうが、当地のほとんどの船宿は道具から仕掛けまでフルレンタルでチャレンジできるから、深海釣りの経験がない人でもキンメ釣りのだいご味を堪能できる。

(詳細は58ページ参照)



●南伊豆手石港・愛丸 佐藤 譲船長